

あおもり産木材地産地消ガイドブック 2025

青森の木と暮らす

Made in Aomori House

青森市総合体育館

スカクピログループ

Special Feature 「健康」「交流」「防災」の拠点

第18回 あおもり産木材活用
建築コンテスト作品集

Made in Aomori House
県産材地産地消ビルダー事例5

木の窓からのけしきを、とりもどそう。



むかし、部屋から見上げた空は木の枠にふちどられていました。

日本のふつうのまいにちは、自然とともにありました。

時はながれ、世界は目まぐるしくかわったけれど、こころが安らぐけしきは、もしかしたらあの空かもしれない。

かつて見た木の窓からのけしきを、とりもどそう。



木製サッシ『MADoba』

- 性能性気密…… 水密・断熱・遮音・防犯性に優れ、日々のお手入れもしやすい。
- バリエーション…… 空間に合わせて自在に選べるカラーとハンドル。
- 意匠性…… 一つとして同じ木目は無い。木ならではの深い味わい。

人に、環境に優しい木製サッシだからこそ「今」選ばれる理由があります。ぜひショールームにてご体感ください。



株式会社日本の窓 本社/工場ショールーム

〒034-0105 青森県十和田市大字八斗沢字八斗沢68-10

TEL : 0176-58-6070 FAX : 0176-58-6080





AD PAGE

協賛企業・団体

Cover Photo

表紙写真：カクヒログループスーパーアリーナ（青森市総合体育館）
写真協力：大成建設株式会社（撮影 川澄・小林研二写真事務所）

CONTENTS

04 Special Feature

[特集]

カクヒログループ スーパーアリーナ

青森市総合体育館

08 AOMORI WOOD ARCHITECTURE CONTEST 2025 2025年度 第18回 あおり産木材活用建築コンテスト

19 *Made in Aomori House* 県産材地産地消ビルダー実例 5

- 20 有限会社 岩木建設
- 24 有限会社 キーポイントホーム
- 28 有限会社 大坊建設
- 32 株式会社 大山建工
- 36 企業組合 県木住

40 *Aomori Wood Showroom Renewal* 株式会社 今井産業「2025 ショールームリニューアル」

44 *Aomori Wood Fan Event* チーム県産材「縁むす日」

48 *Aomori Wood Story_no.2* 県産材ストーリー [第2回] 県産木材を活用した青森ねぶた出陣す！ ～イメージアップ、そして地域経済の活性化を期待して～

- 表2 株式会社 日本の窓
- 50 株式会社 北電
- 51 青森県森林組合連合会
- 52 青森県木材協同組合
- 53 製材等JAS第三者検査機関あおり
- 表3 青森県優良住宅協会
- 表4 NICOSTOCK Furniture

Special Feature

[特集]

カクヒログループ スーパーアリーナ

青森市総合体育館

「健康」「交流」「防災」の拠点
親しみある雰囲気、スポーツはもちろん、
市民が気軽に憩える場に。

青森市中心部からほど近いところにある青い森セントラルパーク。旧国鉄の操車場跡地を利用した公園で、散歩やジョギングなど市民の憩いの場として親しまれています。

その場所に2024年、カクヒログループスーパーアリーナ（青森市総合体育館）が完成しました。デザインコンセプトは、「地元のあたたかい自然材料を使った市民の集いと交流の場となる、公園と一体となった、開かれたアリーナ」。建築家の隈研吾さんが設計しました。青森県産木材が要所に効果的に使用され、ぬくもりのある雰囲気を漂わせています。

文・写真=佐藤 史隆 写真協力=大成建設株式会社（撮影 川澄・小林研二写真事務所）
text/photo:Fumitaka Sato photo:TAISEI CORPORATION(photo:Kawasumi・kenji Kobayashi Photograph Office)

「メイン・サブアリーナ」 県産材を壁に張り巡らした

建物は「メインアリーナ」を中心に、「サブアリーナ」、メインとサブアリーナを結ぶ空間「ヨリドマ」を中心に構成され、キッズルーム、多目的室、会議室なども備えています。

メインアリーナとサブアリーナには、壁面を中心に県産木材が使用されており、木の空間、にいることを実感するでしょう。

メインアリーナは、1階に収納式の可動席1344席、2階に固定席1254席を備え、Bリーグ（バスケットボール）やVリーグ（バレーボール）などのプロスポーツの公式試合に対応しています。大型ビジョンもあり、コンサートなど多くのイベントで活用されています。

メインアリーナの1階の壁面には、アカマツ、カラマツの針葉樹合板が横ボーダー状に貼り巡らされています。2階壁面は、音響を考慮しての県産スギ材のムルーバーが設置されており、Y字ブレースの側面と柱側面、天井の鉄骨梁の下端にも県産スギ材が使用されています。

サブアリーナは主に市民の利用を想定しています。アカマツ、カラマツが壁面を覆いつつ、下の方はガラス面で構成しています。南北のガラス面は、開放することができ、この施設を象徴する空間であるヨリドマやイベント広場との一体感をもった利用が可能になります。



メインアリーナ2階にはランニングコースや、館内の案内表示など、要所要所に木材が使用されている



県産木材がインパクトあるかたちで使用されているメインアリーナ



サブアリーナは四方の壁一面に県産木材



青森らしい「温かさ」が込められた「ヨリドマ」



メインアリーナとサブアリーナを県産木材を使用した屋根がっくヨリドマ

青森の風土に育まれた暮らしの知恵とやさしさがこの近代的な建築に取り入れられています。

建物全体の中心部に位置する「ヨリドマ」。見上げると、天井面には鉄骨と木材がハイブリッド構造で、編目格子状に組み立てられています。これはリンゴ籠をモチーフにデザインされています。スポーツをする人たちに限らず、子どもから高齢者まで、多様な市民の活動の舞台となる、伸びやかな風景を、という隈研吾さんの思いが強く込められています。市民のヨリドコロとなる温もりの土間、という意味を込めて命名されました。

また、ヨリドマの階段を上ったところには、最新の風制御設計技術を用いた雪囲い「カッチョ」^{※1}があり、ヨリドマにつながる園路には「コミゼ」^{※2}があります。

コミゼの天井部分もヨリドマ同様、県産木材を用いてのリンゴ籠模様でデザインされています。

※1 五所川原地域などで古くからみられる防風雪の柵。

※2 商店街の私有地部分にかけられた、いわば木製のアーケードで、黒石市のこみせ通りが有名。



子どもたちに人気の「キッズルーム」

開館当初からの人気スペースが「キッズルーム」です。ネット遊具や滑り台などの大型遊具があるエリアと、玩具や絵本などを設置した乳幼児のためのエリアに分けられています。特に後者の乳幼児のためのエリアは、県産木材による棚で囲われており、木のやさしさに包まれているような安心感のある空間になっています。

カクヒログループスーパーアリーナは、アスリートを中心に、子どもから高齢者まで、多くの市民が多様なスタイルで利用できる場所です。青森らしいコンセプトの中に、県産木材が一役も二役も買っています。



ぬくもりと安心感のあるキッズルーム

DATA 施設概要

- 施設名：カクヒログループスーパーアリーナ
(青森市総合体育館)
- 施設概要：地上3階建て
 - メインアリーナ約2,000㎡(40m×50m)、
収容人数約3,500人(Bリーグ時)、
収納式の可動席(1,344席)、2階に固定席(1,254席)
 - サブアリーナ約920㎡(23m×40m)
 - ヨリドマ約850㎡ ●キッズルーム約760㎡
- 延床面積：約11,000㎡
- 建築主：青森市
- 設計：株式会社隈研吾建築都市設計事務所
大成建設株式会社
株式会社川島隆太郎建築事務所
- 監理：株式会社隈研吾建築都市設計事務所
株式会社川島隆太郎建築事務所
- 施工：大成建設株式会社
株式会社藤本建設

2025年度
第18回

あおもり産木材活用 建築コンテスト

木づかい大賞は住宅新築部門より
1952HINOKIYA一級建築士事務所・有限会社赤穂工務店が受賞。

令和8年1月28日、第18回あおもり産木材活用建築コンテストの表彰式が
青森県庁において開かれ、最高賞の木づかい大賞（知事賞）をはじめ、
各部門の受賞者が表彰されました。

文・写真=佐藤 史隆
text/photo:Fumitaka Sato

AOMORI WOOD
ARCHITECTURE
CONTEST 2025



受賞者記念撮影

〈木づかい大賞(知事賞)〉は、住宅新築部門応募作品から、八戸市の1952HINOKIYA一級建築士事務所・有限会社赤穂工務店(作品:多賀台の家・八戸市)が選出されました。

また、〈木づかい賞〉には青森市の企業組合県木住(作品:本物の素材に囲まれて暮らす心地よさ・弘前市)と、東京都の株式会社プラスニューオフィス(作品:八戸港フェリーターミナル・八戸市)、〈審査員特別賞〉は、むつ市の齊藤工建(作品:無垢材や漆喰の自然素材に囲まれた十二間の住宅・むつ市)、〈県民投票賞〉は田子町の有限会社日沢建設(作品:自然体で暮らせる、木を感じるちいさな住まい・八戸市)が選ばれました。

応募総数は9作品でした。(住宅新築部門7、住宅リフォーム部門1、非住宅木質化部門1、非住宅新築部門0)。

授賞式の冒頭、審査委員を務める青森県農林水産部林政課の工藤真治課長が選考過程について報告を行い、「審査基準に基づき書類審査と現地審査を行った結果、木づかい大賞は、県産材が適材適所に使用され、地域の木材と職人の技術がうまく融合された居心地の良い空間づくりを高く評価し『多賀台の家』を選定した」と述べました。

受賞者への表彰に続いて、小谷知也副知事は「作品それぞれにおいて、県産木材の特徴を生かした使い方や工夫がみられ、木のぬくもりや心地よさが十分に伝わってきました。さまざまな建築物に県産木材を使用することは、伐って、使って、また植えるという森林資源の循環利用を支える重要な取り組み。また地域経済の活性化や

地場産業の振興にも貢献します。今後もスギやヒバ、アカマツといった良質な県産木材を使った建築物を県外の多くの方々にも広めたく、一層の県産材利用に努めていただきますよう、あらためてお願いいたします」と挨拶を述べました。

木づかい大賞(知事賞)を受賞した1952HINOKIYA一級建築士事務所の柁澤卓馬代表取締役は、「大変素晴らしい賞をいただき誠にありがとうございます。今回、木づかい大賞をいただいたが、昨年と一昨年に応募した作品は木づかい賞でした。過去2回の作品と何が違ったのだろうか自己分析をしたところ、今回は全体的にまんべんなく青森ヒバを使ってまとめられたところが大きかった。これからは青森ヒバや県産木材をたくさん使っていい住宅、いい建築ができるようにがんばっていきたい」と感謝。有限会社赤穂工務店の赤穂直樹代表取締役は「構造材はもちろん内部の造作材、建具も地元木材をふんだんに利用した。世の中は物価高で、住宅の着工件数が低迷しているが、地元材の普及に努めたいです」と話しました。

小谷副知事から青森ヒバ製の表彰状を受け取った木づかい大賞の1952HINOKIYA一級建築士事務所の柁澤卓馬さん(左)と、有限会社赤穂工務店の赤穂直樹さん(右)





続いて各賞の受賞者が感想を述べました。

住宅新築部門・木づかい賞の企業組合県木住の佐藤時彦代表理事は、「今回の住宅は、施主さんからお料理教室をやるという前提で、`本物の家をつくってください、`県産材でいい家を作ってください、というオーダー。濃厚な打ち合わせを繰り返しながら、設計から3年4か月という時間をかけて作り上げたものです。これからもユーザーさんの力もお借りして県産木材を広めていきたい」、非住宅木質化部門・木づかい賞の株式会社プラスニューオフィスの瀬戸健似代表取締役は、「このフェリーターミナルを設計するに当たり、海の玄関口として船の利用者だけではなく、八戸市民も気軽に利用できるような場所にしたいと考え、エントランスロビーをやさしい空間にするため、県産のアカマツを取り入れました。私たちは、全国各地でその土地の木を使っていますが、青森の木は、非常に力強く、やさしさ、あたたかみのある木という印象。そのおかげで、非常にあたたかみのある空間ができたと思っています」と語りました。

続いて、審査員特別賞の齊藤工建の齊藤誠代表は、「本当にありがたい賞をいただきました。私は二代目で、父親のところに戻って、当初から本物の素材を使いたいと思っていました。今回は、もともとジャングルのような木が生い茂げる場所を何とかするところからの依頼でした。経年変化の魅力からスギ材を随所に活用しています。初めて出したコンテストで、賞をいただくことができたことをうれしく思います」、県民投票賞受賞の有限会社日沢建設の日沢景太専務取締役は「22坪のコンパクトな住宅です。自然体で暮らせる、木を感じることができる住宅というオーダーでしたので、県産木材を使ってしっかり木をみせたいと取り組みました。高性能住宅にも仕上がっています。この賞をいただき、これからも魅力ある住宅づくりに努めます」と述べました。

受賞者の言葉を受けて、最後に実行委員会の齋藤渉会長が、受賞者と関係者に感謝を伝え、「このコンテストは、平成20年より実施しています。県産材の利用にあたって住宅はもちろん、非住宅の木質化という分野も設けています。構造はコンクリートや鉄骨だけれども内装には木材を利用することによって今までにないあたたかな空間を表現していただきたいというものです。このことが県産材利用推進に大きく貢献することを期待しています。今後も木材の地産地消が進み、快適でぬくもりを感じる県産材でつくられた作品が広く普及していくことを期待して、このコンテストを続けていきます。これからもますますよろしく申し上げます」と述べて、表彰式を締めくくりました。

また、表彰式終了後、会場を青森県火災共済会館に移して、受賞者らによる意見交換会が開催されました。この機会を通じて、関係者同士が交流を図ることで、県産材活用のさらなる発展につながればという趣旨のもと、各受賞者による受賞作品の解説の後、活発な意見交換が行われました。



AOMORI WOOD ARCHITECTURE CONTEST 2025

2025年度
第18回

あomorい産木材活用 建築コンテスト作品集

Award Architect

【住宅新築部門】

▲ 木づかい大賞 ▲

1952HINOKIYA一級建築士事務所・有限会社赤穂工務店
多賀台の家

【住宅新築部門】

▲ 木づかい賞 ▲

企業組合県木住
本物の素材に囲まれて暮らす心地よさ

【非住宅木質化部門】

▲ 木づかい賞 ▲

株式会社プラスニューオフィス
八戸港フェリーターミナル

【住宅新築部門】

▲ 審査員特別賞 ▲

齊藤工建
無垢材や漆喰の自然素材に囲まれた十二間の住宅

【住宅新築部門】

▲ 県民投票賞 ▲

有限会社日沢建設
自然体で暮らせる、木を感じるちいさな住まい

知事賞

Entry Architect

- 【住宅新築部門】 有限会社大坊建設 「季坐暮(ときざくら)」
- 【住宅新築部門】 株式会社建築工房零 青森設計室 「県産木材で建てる9坪の家」
- 【住宅新築部門】 企業組合県木住 「Made in AOMORI! 家族が集う居心地のよい暮らし」
- 【住宅リフォーム部門】 有限会社キーポイントホーム 「スギの木目・艶・香りを感じて暮らす温もりに包まれた空間リノベーション」

あomorい産木材活用建築コンテスト実行委員会

■ 構成員: 青森県木材利用推進協議会 / (一社) 青森県建築士会 / (一社) 青森県建築士事務所協会 / 青森県木材協同組合 / 青森県森林組合連合会 / 青森県森林整備事業協同組合 / 青森県国有林材生産協同組合 / (公社) 青森県林業会議、青森県建設組合連合会 / (公社) 日本建築家協会青森地域会 / 青森県(建築住宅課、林政課) ■ オブザーバー: 東北森林管理局青森森林管理署、青森県優良住宅協会

【住宅新築部門】

木づかい大賞

1952HINOKIYA一級建築士事務所・有限会社赤穂工務店 多賀台の家



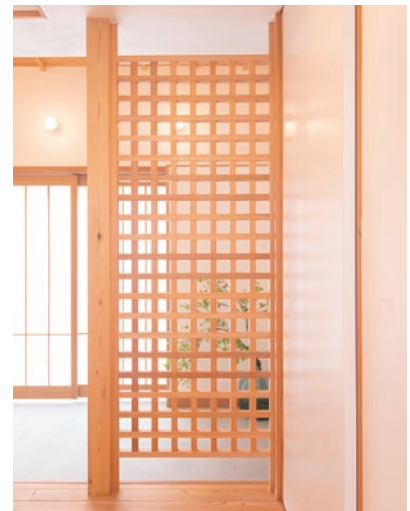
青森県産材の特性を活かし、適材適所に使用した住宅。耐久性と防虫性に優れた青森ヒバを、外観の一部や玄関ドア、土台に採用しています。地域の気候風土に適した、高い耐久性と美観を両立させました。室内には柔らかく温かみのある青森スギを、階段や床、天井、造作材に贅沢に使用。職人が手作業で仕上げた建具や家具は、家全体に温もりと特別な風格をもたらします。リビングには、薪ストーブを設けた土間空間を配置。外部と内部を緩やかにつなぐこの場所は、家族の日常生活を豊かに彩る憩いの場となります。高い断熱性能により、ストーブの熱が吹き抜けを通じて家全体に行き渡り、家中を快適な温度に保ちます。伝統の継承と地域経済への貢献も目指した、自然の恵みを享受する住まいです。

講評

この作品は、外壁の一部や玄関ドア、土台等に耐久性・防虫性に優れた青森ヒバ、階段やフローリング、天井、造作材などには柔らかく温かみのある風合いが特徴の県産スギがふんだんに使用された住宅となっています。

また、木の温もりと薪ストーブや土間コンクリート、漆喰壁などの自然素材の持つ高い蓄熱・調湿機能も相まって、快適かつ安心で暮らせる住空間として設計されています。

地域の木材と地元職人による技術が最大限に生かされており、県産材を適材適所に使用した居心地のよい空間づくりが、建築物への県産材使用の優良事例として高く評価され、大賞に選出されました。(審査委員会)



DATA

建築場所：八戸市
構造及び階数：木造2階
延床面積：161.18㎡
木材使用量：31.17㎡
県産材使用量：19.31㎡
県産材使用率：61.9%

【応募者】

1952HINOKIYA一級建築士事務所
八戸市柏崎三丁目8-13 Tel.0178-43-3848

有限会社 赤穂工務店

八戸市石手洗油久保6-10 Tel.0178-96-5510

- 設計者／1952HINOKIYA一級建築士事務所
- 施工者／有限会社 赤穂工務店
- 県産材調達先／有限会社 檜屋木材店

受賞作品

AOMORI WOOD ARCHITECTURE CONTEST 2025

Award Architect_02

【住宅新築部門】

木づかい賞

企業組合県木住

本物の素材に囲まれて暮らす心地よさ



キッチン、ダイニングを活用した料理教室併用の家。くつろぎの場であるリビングは、伸びやかな天井に整然と並ぶアカマツの梁と、中央に立つスギの円柱が、空間に存在感を与えています。床には3cm厚のスギ材を使用。自然塗料で仕上げることで、夏はさらさらと心地よく、冬は室内の温もりを蓄えて暖かく、一年中素足で快適に過ごせます。また、リビングからはスギのウッドデッキへとつながり、アウトリビングとしてゆったりとした時間を楽しむことができます。2階は小屋裏利用のため、こもり感と木の香りが漂う山小屋風の雰囲気。外観は金属サイディングとスギ板を組み合わせ、落ち着いた色合いに仕上げました。デザインと性能のどちらにも県産材の良さを最大限に活かした設計です。

講評

この作品は、県産材やホタテ貝殻粉末入りの漆喰、土佐和紙、サーキュラーコットンボードなどこだわりの素材が各所に用いられた料理教室併用の住宅となっています。

外壁は紺色の金属サイディングとスギ板の組合せでシックな雰囲気仕上げられています。一方、内装は自然塗料を塗布したスギ板のフローリングや漆喰壁など全体的に穏やかな色調でまとめられ、間接照明の効果もあり、落ち着いた空間となっています。

県産材がふんだんに用いられており、施主と工務店とがこだわりのある自然素材と調和のとれた住宅を二人三脚で作上げた点が評価され、木づかい賞に選出されました。(審査委員会)



DATA

建築場所：弘前市
 構造及び階数：木造2階
 延床面積：189.50㎡
 木材使用量：68.62㎡
 県産材使用量：46.93㎡
 県産材使用率：68.3%

【応募者】

企業組合県木住

青森市浪岡徳才子福田60-2

Tel.0172-55-7793

■ 設計者／企業組合県木住

■ 施工者／企業組合県木住

■ 県産材調達先／青森県森林組合連合会 他

【非住宅木質化部門】

木づかい賞

株式会社プラスニューオフィス 八戸港フェリーターミナル



八戸市と北海道苫小牧市を結ぶフェリーターミナル。目指したのは乗降客だけでなく、誰もが海や船を眺めるために立ち寄れる空間です。1階エントランスロビーは地域情報を発信する展示スペースとして再整備し、イベント時は隣接する多目的室と外部空間を一体的に活用できる構成。2階は待合室とレストランを設け、3階には海を望む展望デッキを配置するなど、眺望を最大限に生かす造りです。2層吹抜けのロビー天井と壁には青森県産材を用い、「南部菱刺し」や「南部裂織」をモチーフとした意匠を施したほか、建設時に生じた木端材を再利用した家具は、地元木材加工会社の協力のもと八戸工業大学の学生が制作。外観は“氷都八戸”をイメージしたホワイトを基調とした、青森の玄関口です。

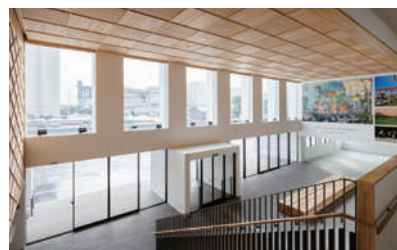
講評

この作品は、令和6年2月に供用開始された八戸市と北海道苫小牧市を結ぶフェリーターミナルです。

1階の二層吹抜けエントランスロビーには「南部菱刺し」や「南部裂織」をモチーフに南部アカマツを用いた地域性の高いデザインが採用され、木の温かみを感じられる、居心地の良い空間となっています。

夕暮れ時には正面の大きな窓から内装の木仕上げが浮かび上がり、昼間とはまた別の表情がみられるように設計されています。

流通材を用いることでコストを抑える工夫も見られたほか、青森を感じさせるデザインで壁・天井を仕上っている点が評価され、木づかい賞に選出されました。(審査委員会)



DATA

建築場所：八戸市
構造及び階数：RC造+S造階
延床面積：3,653.17㎡
木材使用量：4,939㎡
県産材使用量：21.35㎡
県産材使用率：43.2%

【応募者】

株式会社 プラスニューオフィス

東京都新宿区山吹町352-22グローサ・ユニー・新宿6階
Tel.03-6380-3634

- 設計者／株式会社 プラスニューオフィス
- 施工者／田名部・東復特定建設工事共同企業体
- 県産材調達先／青森県森林組合連合会

【住宅新築部門】

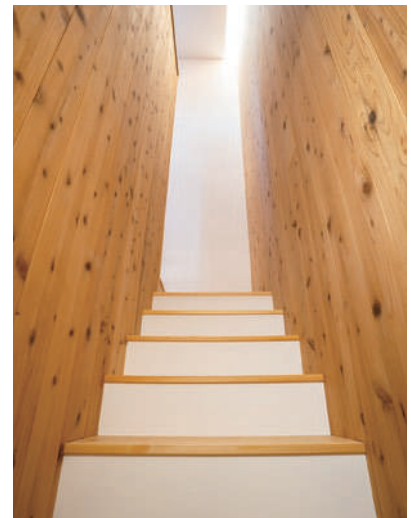
審査員特別賞

齊藤工建

無垢材や漆喰の自然素材に 囲まれた十二間の住宅



塗壁と平滑なホワイトサイディングに県産材のスギを組み合わせ、朝日を全身に浴びることができるように窓を大きくした外観は、下北地方の風土と景観への調和を意識しています。外装・内装ともにスギ無垢材を豊富に用いたほか、玄関ドアや建具の一部には青森ヒバを採用。室内に入ると木の香りが全身を包んでくれます。また、木材の調湿・リラックス効果に漆喰壁の働きが加わり、空気環境をより清潔な状態に保っています。自社職人の造作キッチンや調湿タイルの和室、梁あらかわしの勾配天井リビング、家族の気配がつながるLDKなど、施主様と同社のアイデアを融合により、高断熱・高气密と省エネ冷暖房、機能的換気を一体化し、デザイン面も性能面でも快適な住まいを実現しています。



講評

この作品は、雪にも合う白を基調とした塗壁仕上げとホワイトサイディングに加え、県産スギとレッドシダーでコントラストをつけた外観が目目を引く住宅となっています。

内装にも無垢材やホタテ漆喰などの地元の自然素材がふんだんに用いられており、県外の設計者と地元の施工者が協力して完成させた雪国仕様の家づくりが評価され、審査員特別賞に選出されました。(審査委員会)



DATA

建築場所：むつ市
構造及び階数：木造2階
延床面積：229.63㎡
木材使用量：63.52㎡
県産材使用量：21.35㎡
県産材使用率：33.6%

【応募者】

齊藤工建

むつ市田名部字前川目5-5

Tel.0175-23-3651

- 設計者／(株)アトリエ・リガ・テ都市建築計画
- 施工者／齊藤工建
- 県産材調達先／(有)なかにし他

【住宅新築部門】

▲ 県民投票賞 ▲

有限会社日沢建設

自然体で暮らせる、 木を感じるちいさな住まい



金属サイディングがスタイリッシュな印象の一軒家。室内はがらりと印象が変わり、木のぬくもりを感じられる空間に。室内は柱や梁を見せる真壁構造ですが、過度に大きく見えないよう寸法を調整し、見た目の調和を重視しています。地域の連携で仕入れた県産材は、自社大工による丁寧な手刻み加工を施し、樹種の特性に合わせて活用。床には無垢のスギ材を使い、天井は無垢材を表しとしました。スーパーウォール工法を採用したことで、高い断熱・気密性能を実現。一年中快適な温度が保たれます。1階は地域に開かれたフリースペース、2階はワンルームのように暮らせるプライベート空間という、人を招きやすく暮らしやすい間取り。木の香りに包まれ、自然体で過ごせる心地よい住まいです。



講評

この作品は、外観は金属サイディングが用いられスタイリッシュでシャープな印象を受けますが、内装はスギ板のフローリングや天井には無垢材の表しが採用され、木の温もりが感じられる住宅となっています。

一般投票では、「レトロでモダンな雰囲気が好み」、「木の温もりを感じる」という声が多く寄せられ、最多得票で県民投票賞に選出されました。(審査委員会)



DATA

建築場所：八戸市
構造及び階数：木造2階
延床面積：72.70㎡
木材使用量：44.43㎡
県産材使用量：7.28㎡
県産材使用率：16.3%

【応募者】

有限会社日沢建設

三戸郡田子町大字山口字山口14

Tel.0179-33-1839

- 設計者／スピカ建築工房一級建築士事務所
- 施工者／有限会社 日沢建設
- 県産材調達先／有限会社大坊建設

【住宅新築部門】 有限会社大坊建設

季坐暮(ときざくら)

伝統的な手刻みの職人技と、高気密・断熱のスーパーウォール工法を融合させた住まい。躯体や内部には、加工がしやすく、通気性や防水性が高い青森県産スギを、外部の胴縁には耐水性や耐久性が高く、腐朽に強いカラマツを使用。自然エネルギーを活用するパッシブデザインで、夏は直射しを遮り、冬は暖かな陽だまりをつくります。1階リビングには落ち着ける畳スペースや、天井までの本棚を造作。大きな丸柱が家のシンボルとなり家族の成長を優しく見守ります。



DATA

建築場所：八戸市
 構造及び階数：木造2階
 延床面積：80.97㎡
 木材使用量：18.94㎡
 県産材使用量：17.23㎡
 県産材使用率：91%

【応募者】

有限会社大坊建設

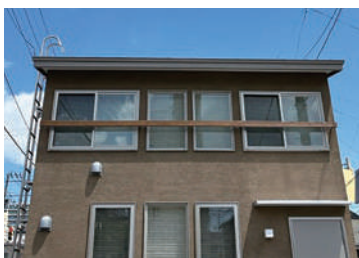
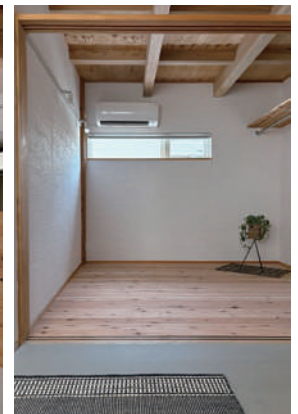
三戸郡田子町大字田子字下田子69-4
 Tel.0179-32-3580

- 設計者／有限会社 設計アトリエ 瀬野和広
- 施工者／有限会社 大坊建設
- 県産材調達先／有限会社 大坊建設

【住宅新築部門】 株式会社 建築工房零 青森設計室

県産木材で建てる9坪の家

解体した親戚の建物の古建具を活用した、夫婦と子ども2人のコンパクトな住まい。広がりを感じられるよう、プライベート空間以外は緩やかに繋がる間取りです。構造材の土台に青森ヒバ、柱・梁や2階の格子のスノコ床などに青森スギと、県産材を適材適所に使用。触り心地のいいスギは、枠材や造作家具にも採用するなど積極的に活用しています。準防火地域であるため、外壁は木材の使用を控え塗装仕上げとしながらも、柵にスギを取り入れて木の温もりを添えました。



DATA

建築場所：青森市
 構造及び階数：木造2階
 リフォーム面積：59.62㎡
 木材使用量：12.29㎡
 県産材使用量：11.19㎡
 県産材使用率：91%

【応募者】

株式会社 建築工房零 青森設計室

青森市栄町2丁目4-2
 Tel.017-718-1320

- 設計者／株式会社 建築工房零
- 施工者／株式会社 建築工房零
- 県産材調達先／株式会社 なかにし

【住宅新築部門】 企業組合県木住

Made in AOMORI 家族が集う居心地のよい暮らし

ホタテ貝殻粉末入りの漆喰壁や、津軽びいどろを取り入れた明かり窓、青森藍で染めた障子、ブナコの照明と、Made in AOMORI をふんだんに取り入れた住まい。「明るくて気持ちのいい風が通る、居心地のよい木の家」を目指して、多彩な樹種を随所に使用しています。土台や玄関式台に耐久性のあるヒバ。柱に間伐材を利用したスギ芯持ち材。梁には横架材に適したアカマツなど。また、柱でスギの美しい木目を見せるなど空間に豊かな表情を与える使い方も意識しています。



DATA

建築場所：青森市
構造及び階数：木造2階
延床面積：133.07㎡
木材使用量：30.66㎡
県産材使用量：24.30㎡
県産材使用率：79.2%

【応募者】

企業組合県木住

青森市浪岡徳才子福田60-2
Tel.0172-55-7793

- 設計者／企業組合県木住
- 施工者／企業組合県木住
- 県産材調達先／青森県森林組合連合会 他

【住宅リフォーム部門】 有限会社 キーポイントホーム

スギの木目・艶・香りを感じて暮らす 温もりに包まれた空間リノベーション

温かな空間を目指してリフォームしたお宅。断熱改修と窓の交換により、外気の影響を受けにくい室内環境を実現。寒さの厳しかった洗面所は、パネルヒーターの熱が床に伝わり、スギ材が温もりを蓄えることで、冬でも素足で過ごす心地よさを。暗かったリビングは、天井と床に無垢のあおもりスギを張ることで光が室内を反射し、日中は照明に頼らず過ごせる明るさを実現しています。将来にわたり暖かく省エネに暮らせる住まいに生まれ変わりました。



DATA

建築場所：弘前市
構造及び階数：木造1階
リフォーム面積：55.06㎡
木材使用量：5.92㎡
県産材使用量：3.71㎡
県産材使用率：62.7%

【応募者】

有限会社 キーポイントホーム

弘前市泉野3丁目11-11
Tel.0172-88-7705

- 設計者／有限会社 キーポイントホーム
- 施工者／有限会社 キーポイントホーム
- 県産材調達先／青森県森林組合連合会

Made in Aomori House

県産材

地産地消ビルダー実例 5

- 01 有限会社 岩木建設
- 02 有限会社 キーポイントホーム
- 03 有限会社 大坊建設
- 04 株式会社 大山建工
- 05 企業組合 県木住

Aomori Wood Showroom Renewal

株式会社 今井産業「2025 ショールームリニューアル」

Aomori Wood Fan Event

チーム県産材「縁むす日」

Made in Aomori House

01

十和田湖畔にひっそり佇む 籠れる木の家

有限会社 岩木建設

文=井藤 雪香 写真=山本 東
text:Yukika Ito photo:Azuma Yamamoto

いわ木の家



日本の伝統的な技法である大和張りで、木の美しさを引き立てる外観。

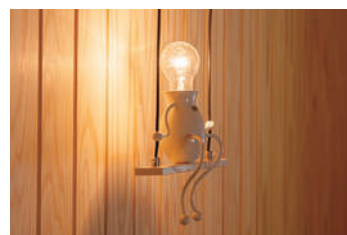
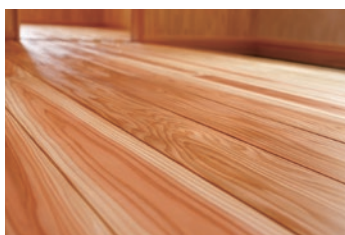
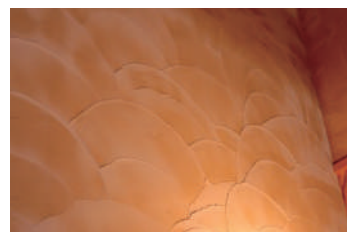
自然と暮らす、平屋の住まい

十和田市を拠点に、大工の技を活かしながら木をふんだんに使った家づくりに取り組む岩木建設。2025年、十和田湖畔に移住して暮らすOさんの住まいを新たに手掛けました。

プランの基本は、木の家であること、ミニマルに暮らせる平屋であること。国立公園区域内の景観になじみながらも、特別な印象を与える板張りの外観は、北海道で腕を磨いた職人の手仕事によるものです。「経年グレーを楽しみたい」というOさんの希望に応えるために、北海道でよく見られるという、無塗装・無加工のカラマツ材を使用した立体感のある大和張りの技法で丁寧に仕上げました。さらに、玄関ポーチに据えた3本の青森ヒバの8寸柱も存在感を放ちます。異なる木の種類による多彩な表情や木組みの美しさで魅せる、まさに木が主役の家です。

玄関の扉を開けると、迎えるのは土間のコンクリートとフローリングの木、壁の漆喰と、異素材が織りなすモダンな空間です。「籠れる空間にしたい」というOさんの希望から開口は最小限。十和田湖の風景を切り取る窓が、一層印象に残ります。よく見ると、キッチン部分の壁の一部は未完成。実はOさんは、「可能性を楽しみ続ける未完の家」というコンセプトも掲げており、「住みながら自分で仕上げたい」と希望したそう。リビングと和室の壁には、青森県産ホタテ貝の漆喰仕上げを。木の梁や変木の柱は空間のアクセントに。さまざまな自然素材や木の表情を楽しめる工夫が施されています。

梁や桁などの横架材に青森県産スギを使用。しなやかな強度で住まいを支え、美しい木目が空間を上質に仕上げる。



暖炉や照明器具はOさんがこだわってセレクトしたもの。高い天井を活かして設けたロフト、ロフトの階段脇の棚を設けたスペースは収納を兼ねている。多彩な木材が、心地よい安らぎに満ちた空間を生み出している。

豊かな暮らしを 実現するデザイン

子どもがすでに独立しており、新天地で新たな人生を送るOさんを優しく包み込むかのような、ぬくもりある木の家。玄関から土間続きでキッチンへとつながる間取りはどこか懐かしく、家の裏の畑で作物を育てたり、DIYを楽しんだりというような暮らしを思い描くOさんに快適さをもたらします。「汚れても気にならず、箒を使った掃き掃除で綺麗にできる作業場が欲しいと思っていました。さらに土間続きの"工房"のような空間も作ることができて最高です。私の十和田湖生活は、このキッチン土間と薪ストーブから始まります」と、Oさんは笑顔です。

土間から一段上がると、素足でくつろぐリビングです。木のぬくもりや開放的な吹き抜け、漆喰壁のラフ塗りの

デザインにより、Oさんの要望である森の中のような空間を実現しています。さらにリビングと一続きになった和室の漆喰壁は竹林を連想する縦模様の左官仕上げとしており、左官技法による違いで異なる自然が響き合うかのような雰囲気を演出しています。

「森をイメージしたリビングと竹林をイメージした和室は同じ漆喰でも異なる味わいで、職人さんの手仕事に感激しています。和室の床柱と、土間の手すりにもなるヒノキの変木の柱は大のお気に入りとなって、毎日何度もスリスリしています。ぬくもりに包まれた安らぎの空間で過ごせることが、とにかく嬉しいです」と、Oさんは豊かな暮らしを満喫しています。

地元の木を使う意味

木は調湿性や断熱性があり、緩衝材としての機能も果たすなど、さまざまな効果で快適な暮らしを支えます。岩木建設が展開する「いわ木の家」の家づくりでは、そんな木の良さを最大限に引き出しながら適材適所で活用。その中で青森県産材もふんだんに使っています。

今回のOさん宅でも、県産スギを構造材や天井などに使用しています。「スギは適度な強度があって折れにくく、反る、捻れる、曲がるといった狂いが少ない。すべてを県産材というのは難しい部分もありますが、構造材には積極的に使っています」と、同社の岩木社長は話します。

内装材では、浴室や洗面室などサニタリースペースの壁に青森ヒバをふんだんに使用しています。青森ヒバの持つ消臭・防虫・抗菌効果を活かした配置で、ヒバ特有の豊かな香りを楽しめるのもポイントです。

「寒い土地の木は年輪が詰まっていて密度が高い。そのため同じ国産材でも寒い土地のものをなるべく選びます。寒い土地の木が優れているのであれば、まさに青森県産材は最適。地場産の材料を使うことで、気候条件等が同じであることから、無理なく長持ちするというメリットもあります」と岩木社長。県産材を活かした家は、移住してきたOさんの暮らしに安心と豊かさを添えてくれることでしょう。



1



2

1. ロフト 2. サニタリースペース



1



2

1. リビングの庭側に設けた土間 2. リビング横の寝室

DATA | 物件概要

施設名：一般住宅
 構造及び階数：木造2階建て
 建築面積：89.43㎡
 延床面積：89.43㎡
 完成年月日：2025年12月18日

設計者：いわ木の家設計事務所
 施工者：有限会社 岩木建設

【県産材の使用状況】

構造材：土台に青森ヒバ、柱・梁にスギ
 内装材：床・天井・壁にスギ、壁にホタテ漆喰
 外装材：柱に青森ヒバ、外壁にカラマツ板貼り

BUILDER'S DATA | 工務店情報

有限会社 岩木建設

青森県十和田市大字洞内字井戸頭175-1
 Tel:0176-27-2906 Fax:0176-27-3259
 iwaki@sea.plala.or.jp
 http://www.iwakinoie.co.jp/



Ki-POINT HOME'S

Made in Aomori House

02

セカンドライフを愛犬と心地よく 雪国で叶える ストレスフリーな家

有限会社 キーポイントホーム

文=小田切 孝太郎 写真=有限会社キーポイントホーム 提供
text:Kotaro Odagiri photo:Ki- Point Home's





1. 2階の窓のように見えるのがリビングの採光窓。 2. 光りを抑えたガルバリウムがシックな印象をあたえてくれる玄関まわり。 3. コンクリート部分に融雪システムが敷設されています。 4. 自宅前にゴミを出すのがこの地域の収集ルール。入口のシャッター脇には扉付きのゴミ出しスペースを設けました。 5. 緑が生い茂るのが楽しみな花壇スペース。

雪の降るこの地で末長く暮らすために

「はじめは建築屋さんとは知らなくて」。そう話すのは、2024年の11月に完成した新居に夫婦と愛犬のエマちゃんと暮らしているS様の奥様。施工は弘前市に拠点をおく有限会社キーポイントホームで、阿保勝之社長との出会いのきっかけが愛犬でした。「青森県産の木の家で愛犬との楽しい毎日」を理念に掲げる同社では、展示場を「dog cafe 木-point」として開放しています。何気なく訪れたドッグカフェで、温もりある木の良さを体感したS様ご夫婦。しばらくしてから同じ敷地に建つ両親の住まいが空いたこと、ご自身も退職後の生活を考えるタイミングに差し掛かり、新築を決意しました。

かつては4棟がひしめき合っていた約200坪の敷地に建つS様邸。新居の玄関部分は無落雪屋根、居住部は片流れ

屋根という立体感のある外観で、外壁のガルバリウムとサイディングの使い分けがアクセントになっています。

思い描いたのはストレスなく暮らせる家。豪雪地域であるうえ、この広い敷地。理想を叶えるための第一歩が雪対策でした。それを解決するのが井戸水を循環させる融雪システム。玄関周りから駐車スペースまでをカバーし、昨冬は奥様の背丈ほど雪が積もりましたが、雪かきは一度も不要だったそう。一冬で15,000円弱というランニングコストも助けにもなっています。ちなみに勾配屋根はストッパールーフなので屋根雪が落ちず、こちらも雪対策に一役かっています。



造り付けの本棚があるご主人の書斎。



併設されたトイレとシャワールーム。
長年の経験がある阿保代表も初めて施工したとのこと。

「使いやすさ」を詰め込んだ県産材の空間

年齢を重ねても無理なく暮らせる家と考えた結果、階段のない平屋という選択をしたS様。「使いやすさを詰め込んだ家なので、面白いところがたくさん」と阿保社長は話します。まず気になったのはご主人の書斎に隣接したトイレとシャワールーム。職業柄、感染症に配慮して、夫婦のどちらかが体調を崩した場合に備え、生活空間を完全に別けられる造りにしました。ランドリースペースには奥様の腰ほどの高さの作業台と、電動昇降式の物干しを造作。たたむ・干す・アイロンがけまでを一カ所で完結できることに加えて、ドラム式洗濯機も20センチほど底上げし、ちょっとした動作の負担を減らしています。その他にも寝室内にトイレを配したり、通路や建具の幅も車椅子に合わせるなど、将来の介助を見据えた気遣いが各所に散りばめられています。

家の中は玄関周りを青森県産ヒバで、他居室の床と天井の羽目板は同じく青森県産のスギを使用。スギの床板はやわらかな足ざわりが心地よい反面、キズつきやすさがデメリットとされ、S様もエマちゃんの爪痕などを心配していましたが、目立つダメージはないとのこと。そして壁には青森県産ホタテの貝殻入り漆喰を使用。コテのムラをなるべく出さないような塗りは熟練の職人ならではの仕事で、漆喰のもつ落ち着いた自然のやさしさを感じられます。

「訪れた方々は『木の香りがして気持ちいい』と言ってくれます。不思議と落ち着くのが県産素材の良さ。この家に住んでから風邪をひかなくなったんですよ」と奥様は大満足の様子。リラックス作用や調湿・抗菌などを持つ県産材のコラボが、空間の快適性を一段と高めていると感じています。



1. ヒバを用いた格子戸が目引く風除室。
2. この空間同様、家の中はスギ材を主体に造作されています。
3. 格子の目隠しはキーポイントホームらしさのひとつ。
4. 壁は調湿、抗菌、消臭効果のある漆喰塗り。
5. 作業台と昇降式の物干しが、家事をアシストしてくれるランドリースペース。
6. 玄関は土間続きでシューズクローク、愛犬の足を洗う水場にアクセス可能。

人にも愛犬にもやさしい家

S様の暮らしを語るうえで欠かせない存在が、共に暮らすエマちゃんです。敷地内にはドッグランスペースを設けながら、家の周囲もぐるりと回遊でき、いわば敷地全体がドッグランのように使えます。玄関にはウォークインでエマちゃんの足洗い場を完備し、日々の散歩後もスムーズな生活を実現しています。

そして家族全員のお気に入りリビング。外から見ると2階建てに見える正体が、天井の高いこのリビングです。勾配天井による縦方向の広がり、斜めに設けた壁が視線に動きを与え、実際の広さ以上の開放感を感じさせてくれます。キッチンからもソファからもテレビや外の景色が自然と目に入り、家族がそれぞれの場所にながら、気配を感じられる設計です。「阿保社長とは『キリンが飼えるね』って笑ってるんです。朝、高窓からリビングに差し込む光がとても気持ちよくて、エマも起きるとリビングに来て撫でられるのを待ってるんですよ」と奥様。愛犬にとってもリビングは安心して過ごせる居場所です。

段差のない平屋の動線、将来を見据えた設備計画、雪と向き合うための備え、そして愛犬との暮らしを支える細やかな工夫。その一つひとつが積み重なり、セカンドライフを楽しく過ごすためのストレスフリーの住まいがかたちになりました。



S様ご夫妻もエマちゃんも一緒にくつろげるドッグランスペース。



圧倒的な広がりを感じさせてくれる木質感たっぷりのリビングは、S様の家造りを象徴するような空間。

DATA | 物件概要

施設名：一般住宅
 構造及び階数：木造平屋建て
 建築面積：148.26㎡
 延床面積：138.94㎡
 完成年月日：2024年11月15日

設計者：有限会社 キーポイントホーム
 施工者：有限会社 キーポイントホーム

【県産材の使用状況】

構造材：土台に青森ヒバを使用
 内装材：床・壁・天井にスギを使用

BUILDER'S DATA | 工務店情報

有限会社 キーポイントホーム

青森県弘前市泉野3丁目11-11
 Tel:0172-88-7705 Fax:0172-88-7706
 staff@ki-pointhome.com
<https://ki-pointhome.com/>





DAIBOU KENSETSU

Made in Aomori House

03

伝統の木造軸組工法で叶えた、 弓道場のある和モダンな家

有限会社 大坊建設

文=栗本 千尋 写真=松川 雄史
text:Chihiro Kurimoto photo:Yuji Matsukawa



白い外壁に、特徴的な形状の屋根が目を引き外観。

特徴的な形の屋根、 その理由は……？

八戸市を流れる二級河川の新井田川。その近くに、屋根の形状が特徴的な一軒家があります。一般的に屋根の形状は、本を開いて逆さまにしたような「切妻屋根」や、頂点に棟（むね）があり四方向に傾斜する「寄棟（よせむね）屋根」、一方にだけ傾斜がある「片流れ屋根」、四角錐の「方形（ほうぎょう）屋根」などさまざまな種類がありますが、この家は、正方形の対角線を折ってかぶせたような屋根なのです。どうして、わざわざこんな特殊な形状にしたのでしょうか？その秘密は、家の2階にありました。

「施主のK様は弓道の指導者でもあり、自宅に稽古用の弓道場がほしいというご依頼でした。2階にスペースをすることにしましたが、弓がぶつからない3m以上の天井高を確保するため、形状を最適化したのがこの屋根です」

そう話すのは、大坊建設の大坊幸吉代表。大坊建設は田子町を拠点とする建設会社です。青森県十和田市にある「大正昭和ロマン喫茶 段ノDe」の古民家リノベーションなどを手掛けた実績もあり、日本の気候に合った伝統工法である、木造軸組工法を採用しています。木造軸組工法は、構造の堅牢性を高められ、設計の柔軟性にも優れるため、既製工法では困難な構造・意匠のK様邸にも、手刻みでの木組みを選択しました。



手刻みでの木組みには、細部にまで職人技が宿る。

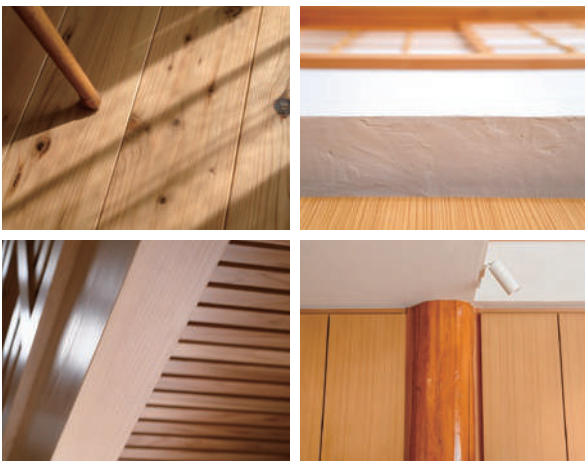


施主のK様たっての希望で設えられた弓道スペース。弓がぶつからないよう3m以上の天井高を確保した。

青森県産スギを ふんだんに使用

施主のK様はもともと八戸市内に住居を構えていましたが、娘さんとお孫さんのUターンを機に、二世帯住宅を検討するように。施主の奥様は、こう話します。
「大坊さんには以前の住居を建ててもらった縁があり、土地探しからお手伝いしていただいたんです。最終的に、娘世帯とお互いの居場所・独立性を確保できるよう、敷地内に二世帯分離で建ててもらうことにしました」

無垢材の床が心地よい玄関と階段。利便性を考え、いずれも手すりを設置した。



K様邸は玄関からすでに、ふわりと木のいい香りがします。青森県産スギを中心に使用し、床はスギの無垢材。柔らかく傷がつきやすいものの、水を含ませることで、ある程度は復元が可能です。大坊建設では、福地方面のスギ材を調達し、原木を乾燥させて保存し、必要時に製材。化粧梁や建具なども家に合わせて造作しており、プレカットでは真似できない、自由度の高い設計が叶えられています。木部塗装は無機系の仕上げで保護し、木の温もりを感じられるように。また、壁や天井には国産珪藻土を使用し、調湿・脱臭の機能も備えています。無垢材や自然素材に囲まれ、機能性にも優れた、心地よい家です。

木部塗装は無機系の仕上げで保護し、壁や天井には国産珪藻土を使用。

ライフステージに 合わせた動線づくり

K様邸は玄関を入ってすぐ右手側に広々としたリビングがあります。2階の天井高は約4.3m、最大部は約5.5m、1階からの吹き抜け総高は約7mと、吹き抜けと勾配屋根で縦方向の抜けを確保しました。K様ご夫妻は70代なので、地震対応の強度や、維持管理の容易性を最優先。主に1階で完結する動線とし、主寝室は1階に、トイレは1か所にする事で清掃の負担を軽減させました。

住み心地について奥様は、「設計段階で、玄関から直結するリビングは生活感が出てしまうのではないかと懸念していたのですが、いざ住んでみると圧迫感が少なく、動線が良いため、面積は前宅より3～4坪小さいのですが体感的な広がりが増えました」と話します。

吹き抜けの2階部分には和風の意匠が用いられた扉があり、開閉可能。開けば明るく開放的に、閉じれば冷暖房の効率を上げることができます。お孫さんは和風の意匠が好みで、施主様ご夫妻はスタイリッシュ志向のため、設計者の折衷案により和モダンなデザインになりました。お孫さんの評価も上々だそう。

「孫は放課後になると我が家へやってきて、宿題をしながらお母さんの帰りを待っています。この家の和の雰囲気気に入ってくれているので、私たちがいなくなったときは、売ってもいいし、孫が成長したときに住んでもいい。そういう選択肢を残しています」

住みやすさと木の心地よさ、ライフステージの変化にも柔軟に対応する、3世代が行き交う家です。



吹き抜けの2階部分。和風モダンな仕切りを使って個室にもできる。

DATA | 物件概要

施設名：一般住宅
構造及び階数：木造2階建て
建築面積：64.17㎡
延床面積：108.78㎡
完成年月日：2025年4月21日

設計者：有限会社設計アトリエ 瀬野和広
施工者：有限会社大坊建設

【県産材の使用状況】

構造材：柱・梁にスギ
内装材：床・手すり・建具にスギ
外装材：下地材にカラマツ

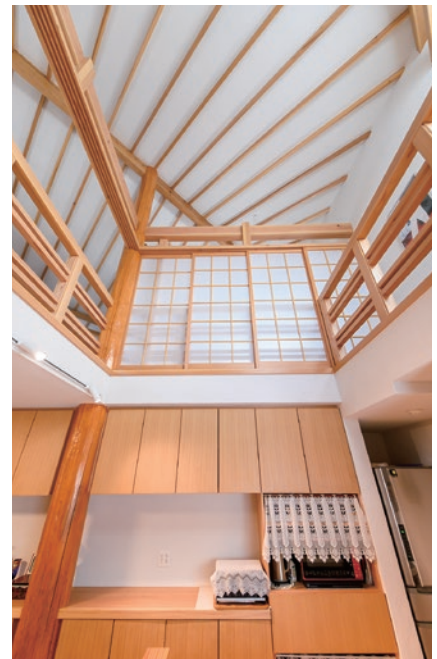
BUILDER'S DATA | 工務店情報

有限会社 大坊建設

青森県三戸郡田子町大字田子字下田子69-4
Tel:0179-32-3580 Fax:0179-32-3582
kouki299@leaf.ocn.ne.jp
https://daibou299.com/



総高約7mにもなる1階からの吹き抜けが、広々とした印象をもたらすリビング。





青灯亭

Made in Aomori House

04

大学の20階に出現した、 現代の“写し”茶室

株式会社 大山建工

文=栗本 千尋 写真=三井嶺建築設計事務所 提供
text:Chihiro Kurimoto photo:Rei Mitsui Architects

OOYAMA KENKO

“茶室オタク”の建築家と、 現代の名工による“写し”の挑戦

ITの最先端を学ぶ千葉工業大学。2025年、津田沼キャンパスのビルの20階に、伝統と現代が融合した茶室「青灯亭（せいとうてい）」が誕生しました。設計は、坂茂建築設計を経て独立し、最近では「EXPO2025 大阪・関西万博ポップアップステージ西」も手がけた建築家の三井嶺さん。東京大学大学院で茶室の研究を行い、「茶室オタク」といえるほど茶室に詳しい三井さんと、厚生労働省の「卓越した技能者（現代の名工）」にも選出された八戸市の大山建工。その出会いは、茶室研究の第一人者である故・中村昌生氏から「八戸にいい大工がいる」と教えてもらったことがきっかけでした。

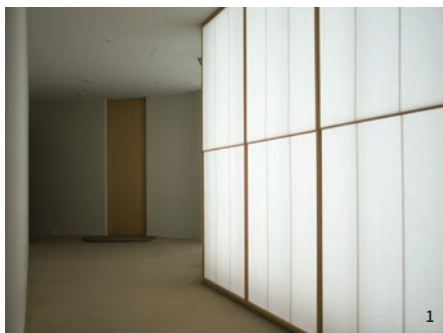
「最初は新千歳空港に直結するホテルのロビーフロア内に茶室を造成するプロジェクトで一緒しました。現代の名工にも認定されていますが、それに満足することなく、常に次へ次へと革新を続ける姿勢が、私の考える茶室づくりと非常にマッチしたんです。これで3回目の協働になりますが、毎回、新しい挑戦ができています」

本プロジェクトの核となるのは、日本文化の伝統的な創作手法である“写し”の精神です。大阪の水無瀬神宮にある宮家ゆかりの茶室「燈心亭」をモデルにしながら、

単なる模倣ではなく、現代の空間バランスに合わせて細部を再構築する“真の革新”を目指しました。

「中村先生の解説文では、宮様がお座りになるであろう点前座まわりに『松竹梅があしらわれている』と書かれていたんです。しかし、実際に現地調査したところ、タケはあるのですが、マツについては使われているものの中村先生が指摘していた場所とは違う箇所であり、ウメは特定できませんでした。つまり、実は松竹梅ではなかったんです。見つけてしまった事実は無視できない。けれども、宮家がお茶をたてるのにふさわしいように松竹梅をあしらったんだらうという先生の推論はストーリーとして美しいと思い、“写し”の精神に立ち返ることにしました。“写し”とは、単なるコピーや模倣ではなく、オリジナルを現代的にアレンジし、発展させる伝統的な創作手法のことです。オリジナルを深掘りして本質を見出したうえで、先人の創作に1ミリでも積み重ねることができれば、それは進化なんです。そこで『青灯亭』には中村先生の解説文とは違う形ではありますが、松竹梅を使おうと考えました」

こうして、現代の“写し”茶室が誕生しました。



1.天井まで伸びるハイドアが、和の雰囲気ながらもスタイリッシュで現代的な印象のアプローチ。俗世から意識を切るための空間としての役割を持つ。

2.寄付兼腰掛待合には正客石など定石の石組みとする代わりに、柱を一本立てて正客と連客の境を示している。

3.前室や坪庭のような役割を持つ内坪から、入側縁を見る。手前の丸柱はコブシだが、こんなにまっすぐなものは珍しいという。



中村昌生氏の解説文に出てきた松竹梅を配置した茶室。

青森の豊かな森がもたらす、市場には出回らない銘木

この茶室には、青森県産のスギ、アカマツ、クリといった地域材が効果的に配されています。

「茶室に使う木材は、ゆっくり時間をかけて育ったものでないといけません。市場に出回る一般的な住宅用の材木は、早いもので30年あれば使用されるものがありますが、茶室用は目が詰まっっていて綺麗な材木を使用するため100年以上たった木が使われます。また、丸太も見た目は細いですが厳しい環境の中で育った材木を吟味します。茶室の空間として成り立たせるためには、年輪が引き締まった、研ぎ澄まされた材が必要なんです。枝打ちなどを適切に行って育てられた木でなくてはなりません」

なかでも特筆すべきは、大山建工の独自のネットワークにより調達された、一般的な市場には出回らない特殊な材料の数々です。例えば、銘木業界でも極めて稀な、3メートルにわたって径がほとんど変わらない真っ直ぐな垂木用の杉の小丸太や、自然な曲線を描くアカマツの枝。これらは、自然のままに見えながらも、室内の意匠とし



- 1.内坪の露地。アプローチから進むにつれ伝統的な要素が増える。
- 2.板を並べて「棧」と呼ばれる横木で固定した「板棧戸」は、無骨で頑丈。
- 3.根石は木の柱の底面を削り出す「ひかりつけ」を採用した。

て成立させるために高度な加工が施されており、職人の目利きと、「隠し包丁」のような繊細な技術が光っています。

大山建工の技術が最も象徴的に現れているのが、茶室独特の根石の納まりです。通常の建築では石を平らに削り、その上に柱を立てますが、茶室では「自然の石を削ってはならない」という思想に基づき、石の凹凸に合わせて木の柱の底面を削り出す「ひかりつけ」という工法が採用されます。

「現代の感覚に合わせた寸法調整も行いました。オリジナルの柱の寸法をあえて縮小し、ビル内の空間に馴染む軽やかさを演出するなど、伝統的な建築の“決まった型”の数字を守るのではなく、その数字が目指した“本質的な美しさ”を追求したんです」

こうした三井さんの思いに、大山建工の職人たちは手間を惜しまぬ手仕事で応えました。

次世代へつなぐ、 学びの場としての茶室

完成した「青灯亭」は、大学の来客対応や教育の場として頻繁に活用されています。

「従来の茶室のような『主客』の固定された関係ではなく、炉を囲んで座る現代的なコミュニケーションが可能な平面の計画になっています。実は、本茶室のモデルとなった宮家ゆかりの『燈心亭』には、決まった作法の記録が残されていません。既存の流派の型をなぞるのではなく、この空間でどう振る舞えば美しく、人をもてなせるかを学生自身が考える必要があります」

青森の厳しい冬を耐え抜いた県産材の力強さと、それを見事にさばいた大山建工の技術は、訪れる人々に日本文化の深みと、自然素材の心地よさを伝えています。「1ミリでも積み重ねることができれば、それは進化である」という三井さんの言葉通り、この茶室は青森の木材と大山建工の技によって、伝統を未来へとアップデートした空間となりました。ITの最先端を学ぶ大学において、あえて自然素材と手仕事の極致に触れることは、持続可能性やもののあり方を考える良い機会を与え続けることでしょう。



伝統的な「書院造」の意匠と、デザイン性の高い「違い棚」が融合し、茶室の雰囲気、格を高めている。



茶道具の準備や片付けなどを行う「水屋」。

DATA | 物件概要

施設名：千葉工業大学 茶室「青灯亭」
構造及び階数：木造平屋建て
建築面積：32.77㎡
延床面積：32.77㎡
完成年月日：2025年4月

設計者：三井 嶺
三井嶺建築設計事務所
施工者：株式会社 大山建工

【県産材の使用状況】

構造材：梁にアカマツ・スギ、下地材にスギ
内装材：敷居にアカマツ、鴨居にスギ
天井・廻り縁・竿にスギ
床板にアカマツ
造作材にスギ・アカマツ

BUILDER'S DATA | 工務店情報

株式会社 大山建工

八戸本部／青森県八戸市大字河原木字千刈田7-1
Tel:0178-21-3055 Fax:0178-21-3033
eigy@ooyamano-ie.jp
<https://www.ooyamano-ie.jp/>



Made in Aomori House

05

木の香りと薪ストーブ 平屋のように暮らす、 自然素材の家

企業組合 県木住

文=小田切 孝太郎 写真=今井 聡
text:Kotaro Odagiri photo:Satoshi Imai



KENMOKUJYU

念願だった薪ストーブのある暮らしを手に入れた M 様ご夫婦。

平屋の心地よさと 将来の安心

ご夫婦とお母様の3人暮らしであるM様が住み替えを考えたのは、住まいの老朽化がきっかけでした。お母様の高齢化に加え、積雪時の除雪作業が大きな負担になってきたこともあり、一時はマンション転居も検討。しかし「除雪スペースを確保できる新居」という選択肢が浮上し、最終的に木の温もりに包まれて暮らす道を選びました。

相談先に選んだのは、青森県産材の家づくりに取り組む「企業組合 県木住」です。「地元の木を使い、地域の循環を守る」姿勢に深く共感していたM様に迷いはありませんでした。同社にアプローチしたのは3年前のこと。絶対条件だった「本物の木に囲まれること」と「薪ストーブ」という要望に対し、津軽地域を中心に、県産材と薪ストーブを組み合わせた住まいづくりを数多く手掛けてきた同社なら安心して任せられると感じたからです。

2024年6月に着工し、12月に完成した住まい。新生活の舞台は、切妻屋根が美しく、平屋の利便性を採り入れた2階建てです。1階だけで生活が完結するよう、玄関から寝室、ランドリー、キッチン、リビングが「口の字型」に繋がる回遊動線。家事負担を減らす最短の設計に加え、階段下収納やキッチン奥のパントリーなど利便性を高める工夫を凝らしました。

リビングから続くウッドデッキは、自家製の梅干しを干すなど手仕事を楽しむお気に入りの場所。寝室からトイレへの移動も近く、家中どこへでもスムーズにアクセスできる住みやすさを実現しています。

また、基礎の高さは40～50cm程度を確保するケースが多いですが、この地域はハザードマップで浸水が想定されるためご主人の要望で60cmの高さに設定しました。

木材とネイビーの壁材という異素材の組み合わせが生むシックな外観。





1.冬は薪ストーブだけでも十分なほどの暖かさ。2.リビング中央のスギの大黒柱はリビングの顔。
3.芳醇な木の香りが出迎えてくれる玄関。4.寝室は藍色の和紙がアクセントに。
5.寝室脇に設けたご夫妻の作業スペース。

木の温もり、 こだわりの造作

一歩入れば、芳醇な木の香りに包まれます。今回の住まいでは柱や床材の7割にスギを使用し、梁にはアカマツ、土台にはヒバと県産材を適材適所で使い分けています。内装や建具にもスギを用いるのが同社の特徴。リビング中央のスギの大黒柱は、「小さな子が遊びに来ると柱に頼りしてるんですよ」と語る奥様の言葉からも、その優しく温かな質感が伝わります。

県木住の住まいの特徴のひとつが上吊り式の引き戸です。床にレールや段差がないため掃除がやすく、将来の足元の不安もありません。施工的にも床材を繋げて貼れるため、空間に美しい一体感が生まれます。重厚な木製建具も吊ることで驚くほど軽く、レールレスでスギの床材の美しさを最大限に引き立てています。

また、アレルギーがある奥様が「身体に優しい住まいを」と自ら提案し、壁には漆喰、天井には土佐和紙、寝室には徳島の阿波和紙を選び抜きました。場所ごとに厳選されたこれらの素材は、建物自体が呼吸するかのように湿気をコントロールし、生活臭を吸着・分解する優れた機能性を備えています。塗り壁のようなしっとりとした質感や、和紙が作り出す穏やかさが空間に安らぎを与えてくれます。

「いつか料理教室をやりたい」という奥様にとって、キッチン是最もこだわりを反映させた場所です。料理の匂いが生活空間に広がらないよう扉で仕切れる独立型を採用しつつ、内部には使い勝手を考慮して2つのキッチンを用意。4人でも同時に作業がしやすいよう、中央にはダブルシンクを備えた広々としたアイランド型を配置しました。圧巻なのは、専門職人の手仕事によるステンレスの造作キッチンです。加工が難しいとされるステンレスを、継ぎ目のないアール状に仕上げた造形美は、まさに職人技の結晶。手入れのしやすさとデザインを高い次元で両立させています。また、家全体は心地よいスギの床で統一されていますが、キッチンだけは掃除のしやすさを優先してタイル床を選択。「本当はここも木にしたかったのですが」と奥様は話されますが、セレクトしたタイルの色合いは木の質感と見事に調和しています。自然素材による消臭効果も相まって、実用性と美しさを兼ね備えた、充実の作業空間に仕上がりました。

アイランドスタイルで導線が自在なキッチン。奥にはパントリーを設けました。



暮らしやすさと自分らしさ

「掃除のしやすさを最優先したい」という奥様のこだわりから、水回りは徹底してシンプルに。浴室には窓も棚も設けず、掃除の負担を最小限に抑えました。また、将来の負担を見据えてガス乾燥機を導入し、洗濯物を干す時間も省いています。

2階へ上がると、2つの個室とともに、薪ストーブの煙突が空間を貫く印象的なフリースペースが広がります。2階個室の寝室の壁に採用したのは、リサイクルボード「サーキュラーコットンボード」。奥様の知人が手がけているという、古着と和紙を掛け合わせたこの素材は、一見すると端正な紙の表情ですが、目を凝らせばかつての衣類が持っていた鮮やかな色彩が散りばめられています。

インテリア等のアイディアは雑誌やインターネットで収集し、ドアノブや丁番などの黒いパーツも奥様がセレクトしたこだわりの品々。県木住の佐藤時彦代表は「奥様のデザインセンスは非常に高く、打ち合わせ時も建築的な専門知識にしっかり対応して下さるので、私共も大変勉強になった。2階の寝室に採用したサーキュラーコットンなど、新しい素材を知るきっかけにもなりました」と振り返ります。

施主の想いに応えるべく重ねた打ち合わせは平均を大きく上回り、図面は70枚に及びました。3年の歳月をかけ、細部まで考え抜かれた「造作品の集大成」は、施主の感性と職人の技術力が共鳴して生まれた結晶。県産材を使ったこの家は一年を通じて木の家の快適性に満ち、暮らしを豊かにしてくれる場所になるでしょう。



洗面脱衣室&バスルーム。
洗濯からお風呂まで、水気のある作業は全てここで完結できる配置に。

DATA | 物件概要

施設名：一般住宅
構造及び階数：木造2階建て
建築面積：161.85㎡
延床面積：189.50㎡
完成年月日：2024年12月20日

設計者：企業組合県木住
施工者：企業組合県木住

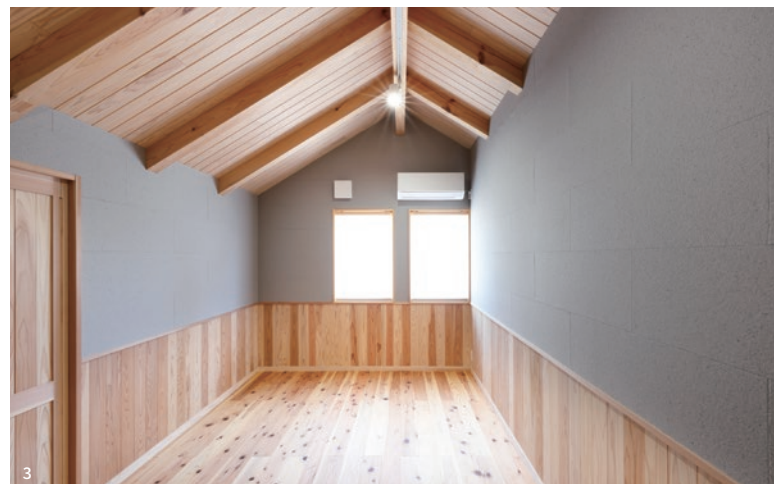
【県産材の使用状況】

構造材：土台に青森ヒバ、柱にスギ
梁にアカマツ
内装材：床にスギ
外装材：外壁・下見板にスギ

BUILDER'S DATA | 工務店情報

企業組合 県木住

青森県青森市浪岡大字徳才子字福田60-2
Tel:0172-55-7793 Fax:0172-55-7559
info@kenmokuju.com
https://www.kenmokuju.com



1. スギの木目が美しい階段下には収納とお掃除ロボット用のスペースを。2. 2階のフリースペースも薪ストーブの輻射熱でぽかぽか。
3. サーキュラーコットンの壁は弾力のある和紙のような触り心地。

Aomori Wood Showroom Renewal

変化する時代に合わせて、 住まいの「選び方」を提案する

2025 ショールームリニューアル
株式会社 今井産業

文=小田切 孝太郎 写真=今井 聡
text:Kotaro Odagiri photo:Satoshi Imai



Showroom Renewal

分野別に比較できる、 体感型ショールームへ刷新

建材やサッシをはじめとする住宅資材の販売を軸に、設計や外構まで住まいに関わる幅広い事業を展開している株式会社今井産業。平川市に構えるショールーム「虹色の杜」は、住宅設備メーカー約30社（要確認）の商品を常設展示し、トイレやキッチン、サッシなどをメーカー横断で分野別に比較できる点が大きな特徴です。個別のメーカー展示場を回らなくても、ひとつの場所で見比べられるこのスタイルは、消費者目線に立った展示として支持を集めてきました。

2025年9月、同社はこのショールームをリニューアル。玄関は玄関、リビングはリビングと、実際の住まいをイメージしやすい空間構成に再編し、リフォームを検討する人にとって格段に見やすい展示へと生まれ変わりました。リビング空間は、見る角度によって和モダンにも洋風にも感じられるよう工夫され、ひとつの空間で複数のスタイルを比較できる構成になっています。



今回のリニューアルでは、空間づくりの一部に青森県産材も取り入れています。手すりや柱などの部材にはヒバを、壁材にはスギを使用し、それぞれの木が持つ色合いや風合いの違いを実際の建物の中で感じられるよう工夫されています。中でも注目なのはバルコニー部分。手すり壁を中心に県産のスギ材がふんだんに使われており、やわらかな木の質感とほのかな香りに包まれながら、住宅設備の展示を見て回ることができます。展示スペースは1階部分だけで約100坪。予約制となっており、落ち着いた環境でじっくりと住まいの相談ができる展示場となっています。

このリニューアルは、資材高騰の影響で新築市場が厳しさを増す中、リフォーム需要に応える拠点をつくりたいという思いが込められています。



NIJIRO no MORI

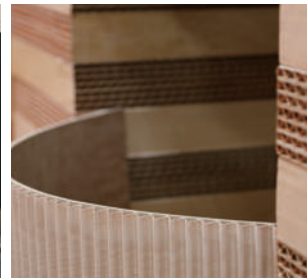
新築が難しい時代だからこそ、相談の入口を広げる

近年、住宅価格の高騰により「家を建てたい」という思いがあっても、一歩を踏み出せない人は少なくありません。展示場に足を運ぶ人も、本当に建てたい、あるいは直したいと考えている層に限られる時代になっています。そうした背景を受け、今井産業では2025年から新たに「おうちの相談所」を開設しました。

同社は住宅専門のファイナンシャルプランナーと契約し、資金計画やライフプランを含めた家づくり全般の相談を受けられる体制を整えています。かつては間取りや見積もりが家づくりの出発点でしたが、今はまず「いくら使えるのか」を明確にすることが不可欠な時代。将来的には法律面の相談にも対応できるよう、専門家との連携を広げていく予定です。

今井産業は工務店ではないため、請負工事は行っていません。しかし、要望に応じて地元工務店を紹介することは可能です。大手メーカーだけでなく、地元工務店にも目を向けてもらうための橋渡しの役割も担っています。





暮らし全体を支える、 地域のパートナーとして

展示場では住宅設備の比較だけでなく、蓄電池やEV車から住宅へ電力を供給するVH2システムなど、今後普及が見込まれる設備も紹介しています。新築だけでなく、将来的な住まいのあり方を考えるきっかけを提供している点も特徴です。

また、外構工事の相談やパースによる提案、段階的な施工計画など、住まいを建てて終わりにしないサポート体制も整備。住宅を取り巻く環境が大きく変わる中で、同社は一社ですべてを抱え込むのではなく、専門家や地域の工務店と連携しながら、住まいに関する悩みを受け止める拠点を目指しています。

「家の性能は、もはや最低条件。その上で、どんな価値を提供できるかが問われている」と語る今井公人代表。比較し、相談し、納得して選ぶ。そのプロセスを支える存在として、地域に欠かせない家づくりのパートナーです。



CORPORATE DATA | 会社情報

株式会社 今井産業

青森県平川市新館藤山16-1

Tel:0172-44-2145 Fax:0172-44-2568

hp-info@imaisangyou.co.jp

https://www.imaisangyou.com/



Aomori Wood Fan Event

県産品をきっかけに 交流が生まれるイベント 「縁むす日」

有限会社 キーポイントホーム／企業組合 県木住

文・写真=苦米地 結子

text/photo:Yuiko Tomabechi



清々しい初夏の空気に包まれた2025年6月1日。今年も青森市浪岡交流センター「あびねす」の多目的広場にて「縁むす日」が開催されました。会場には県内の飲食店やクラフト作家を中心とした16店舗と6台のキッチンカーが集い、どのブースも終始活気に満ちていました。

「縁むす日」は「県産品をきっかけに、県産材に興味のある人たち同士が繋がるきっかけを」という趣旨のもと、県産材の魅力伝える活動をしている「チーム県産材（企業組合 県木住、有限会社キーポイントホーム）」が主催しているイベントで、今年で4回目の開催となります。もともとは取引先やユーザーに向けた感謝祭として始まったイベントでしたが、昨年からはより多くの人を楽しんでもらえるよう、一般の方も気軽に立ち寄りやすいオープンなイベントとして生まれ変わりました。



来場特典でもらえる
わなげ引換券と金券。



金券と交換して焼きたての
貝付きホタテを無料でゲット。



林業アカデミーの紹介コーナーには
木でできたフクロウと
チェーンソーのオブジェが。



県産豚を長期熟成した
生ハムの試食も。

老若男女が楽しめる アットホームな空間

受付ブースを訪ねてみると、会場で使える金券を必ず
ゲットできる抽選会が行われており、カランカランとい
う鐘の音とともに、絶えず喜びの声が上がっていました。
さらには、県産のお米や野菜などの豪華景品が当たる輪
投げコーナーや、子ども向けのお菓子すくいコーナーな
ども。来場するだけで気軽に楽しめるコンテンツが充実
しており、どのブースでも世代を問わず自然な交流が生
まれていたのが印象的でした。

クラフト作家さんの出店ブースでは、津軽塗りの研ぎ
出し体験や杉の木でつくる貯金箱作りなど、作家の個性
が光るさまざまなワークショップが行われていました。
フードブースでは、たこ焼きやベビーカステラなど定番
の屋台メニューのほか、牛サガリを挟んだベーグル、貝
付きの焼きホタテなど、イベントでしか味わえない特別
メニューも。ランチタイムにはどのお店も行列ができ、
会場を何周もして悩む人の姿が絶えませんでした。

今年特に注目を集めていたのが、ペットに特化したブ
ースです。県産材で作った屋外用ドッグランの展示や、
無添加で安心な手作り犬用おやつの販売など、ペットと
の暮らしに関心のある方に向けたブースが充実していま
した。愛犬を連れてお店をまわる人の姿も多く、愛犬家
同士の交流も生まれていました。

TEAM KENSANZAI

EN-MUSUBI

TEAM KENSANZAI

EN-MUSUBI
2025.6.1

IN APINESS NAMIOKA

人と人が ご縁で結ばれる日

このイベントの魅力は、初めての人もそうでない人も、誰もがフラットに交流できるところにあります。イベント名にもなっている「縁むす日」は、“人と人がご縁で結ばれる日”という意味が込められており、どのブースを訪れてもまさにその名の通りの光景が広がっていました。

「実は今回の出店者も募集で集めたのではなく、すべてご縁でつながった方たちなんですよ」と話してくれたのは、主催者の一人であるキーポイントホームの阿保勝之さん。もう一人の主催者である県木住の佐藤時彦さんとともに、イベント中も各ブースをまわりながら来場者や出店者と気さくに会話を交わしている姿がとても印象的でした。

「縁むす日」は、人と人が自然につながり、新しい出会いや発見が生まれていく場。さまざまな分野の県産品を楽しんでもらうことで、青森の魅力やそれに携わる人の魅力にふれ、新しい出会いや発見が生まれていく、そんな温もりのあるイベントです。これからもこうした「ご縁」が広がっていくことを願いながら、次回の開催にも期待が高まります。

NEXT... EN-MUSUBI

縁むす日 2026
10月4日(日)開催(予定)

【会場】青森市浪岡交流センター「あびねす」多目的広場



1. 木の枝とどんぐりを使った小物作りに家族で挑戦。2. 今年は快晴で気温が高かったため、冷たいスイーツが人気だった。3. 県産材を使用した積み木で遊べる木育体験コーナー。4. フィンランドの装飾品「ヒンメリ」を作るワークショップは女性に大人気。5. 虫好きの少年にはたまらない珍しい昆虫の販売も。6. 今年も人気者の県産品PRキャラクター「決め手くん」。



EXHIBITION MEMBERS

[出店メンバー]

- 青森県林政課
- おおわに自然村生ハム工房
- 蝦名木工所
- ほたて漁師おうさか
- (株)今井産業
- くべる部
- さとのはな
- 岩木山麓ちいちゃん農園
- ナカナカストア
- 杉豊商店
- Snow hand mad
- the initial impulse
- dog café 木-point
- 浅虫コリドー
- mesomeso
- アトリエ灯の木
- pommier
- Aiha
- マヨたご弘前店
- muskaan
- SWEETS CAFE CORORON
- musubi.
- FREE
- 移動食堂 味里

ORGANISER & SUPPORT

[企画運営]



- 主催：チーム県産材
 (有限会社 キーポイントホーム・
 企業組合 県木住)
- 後援：青森県森林組合連合会
- 協力：青森県林政課
 青森県木材協同組合

7. 青森ヒバのチップ入りの犬用クッション。8. 豪華景品が当たる輪投げコーナーは老若男女誰しもが夢中に。9. 津軽塗りの皿と県産材を使用してできた時計の販売も。10. 肉厚で食べ応えのある青森きくらげの試食ブース。11. お昼時はどのキッチンカーも行列ができるほどの盛況ぶり。12. 野辺地で採れた完全トマトがイベント限定で破格の値段に。13. 来場者特典のお菓子すくいに挑む子どもの姿が絶えない。14. ちいちゃん農園のりんごジュースやりんごチップスは愛犬にも。15. ワンちゃんも県産材でできたドッグランに興味津々。

県産木材を活用した青森ねぶた出陣す！

～イメージアップ、そして地域経済の活性化を期待して～

文=佐藤 史隆 写真・資料=合同会社ものの芽舎
text:Fumitaka Sato photo & data: Mononomesha

青森県が世界に誇る青森ねぶた祭。

その大型ねぶたに青森県産木材を活用しようと、令和7年4月に青森市、青森ねぶた製作者一同、青森ねぶた運行団体協議会、青森県木材協同組合による協定が結ばれました。

そしてさっそく、同年の祭りにおいて、県産木材を取り入れた大型ねぶたが運行されました。



毎年およそ100万人の観光客が訪れる青森ねぶた祭。大型ねぶたは23台出陣し、お囃子や跳人とともに青森の夏を華やかに盛り上げます。ふるさとの宝といえるこの祭りにおいて、行政、ねぶた関係者、木材関係者の連携により、令和7年度から青森県産木材が使用されることになり、県産木材活用の輪が、祭りという分野にも広がりをみせています。



ねぶたの骨組み。木材は重量を支える重要な役割を担っている。



令和7年度青森ねぶた大賞・青森菱友会「海王」(竹浪比呂央作)。県産木材が、ねぶたの骨組みの一部となって、祭りに一役買っている。



使用した木材を指し示す竹浪比呂央さん。「青森県のために」と引き受けた。

県産木材が使用されているのは、大型ねぶたの内部。針金でこしらえた骨組みが崩れないように支える役目を担っています。これまで、骨組みに使用する木材の多くは、マツなどの輸入木材でしたが、協定を受けて、県産の杉材が取り入れられるようになりました。今年初めての試みでもあり、採用の判断は各ねぶた制作者に委ねられましたが、出陣する多くのねぶたで使用されました。

第7代ねぶた名人の竹浪比呂央さんは、「大型ねぶたの材料として積極的に活用することで、県内外への青森県産木材のアピールにつながると思います。これからも利用していきたいです」と話していました。

表には見えないところで縁の下の力持ちとなって、華やかな祭りを支える県産木材。ねぶた、県産木材双方のイメージアップとなり、さらには林業の活性化、地域経済の活性化につながることが期待されます。

DATA | 作品概要

作品名	大型ねぶた 海王(かいおう)
運行年	2025年
運行団体	青森菱友会
制作者	竹浪比呂央
受賞	ねぶた大賞/最優秀制作者賞

[県産材の使用状況]

構造材：スギ

竹浪比呂央ねぶた研究所

青森市安方2丁目2-8

Tel/Fax:017-752-1616

<https://takenami-nebuken.com/>



青森の住まいにあおもりのあかり

AOMORI no AKARI



youna
よونا

雲のような…優しさのような…
作り手の「想い」と「時」を重ねた手作りの明かり
明かり、なごにふわふわの形。まるで雲のようなランプシェード。
やわらかな紙を、重ねて貼って、重ねて貼って…
ひとつひとつ手作りで仕上げた、「想い」と「時」を重ねた優しい明かりです。

※YOUNAはひとつひとつ手作りの為、形や大きさ等は製品により異なります。



Vidro

津軽ビードロのあかり



Kumiko

津軽伝統組子のあかり



株式会社



ライティングプロジェクト

株式会社 北電 照明事業部 ライティングプロジェクト

あかりのショールーム

完全予約制

☎ 0120-160-062

青森市三内字里見92-4 TEL017-766-7818 <http://www.hoku-den.co.jp/>



青森県森林組合連合会

【連合会の概要】

青森県森林組合連合会は、
県内の森林所有者で組織する森林組合によって組織された団体で、
森林の整備や保護、木材の販売や生産など森林・林業に関わる仕事を通じて、
地域の森づくりや森林経営への貢献を目指しています。



青森県森林組合連合会 代表理事会長 蛭沢 正勝

〒030-0813 青森市松原一丁目16-25 TEL017-723-2657 FAX017-723-1505



県産材のことなら県木協

青森県木材協同組合

〒030-0151 青森市大字高田字川瀬104-1 TEL017-739-8761 FAX017-739-8749

会社名称 | 所在地 | TEL | FAX

<東青地区>

齋藤木材株式会社	〒038-0002 青森市沖館 3-10-1	017-781-1148	017-781-1268
富士木材株式会社	〒030-0901 青森市港町 3-11-21	017-741-6438	017-741-6439
丸重木材工業株式会社	〒038-0059 青森市大字油川字柳川 1-7	017-788-3231	017-788-7203
株式会社盛興業社製材所	〒030-0852 青森市大字大野字前田 63-2	017-739-6267	017-739-6257
工藤秀製材所	〒030-1273 青森市大字左堰字大科 4	017-754-3552	017-754-3552
有限会社前田林業	〒030-1304 外ヶ浜町字蟹田南沢山口 25-1	0174-22-2350	0174-22-3313

<西北五地区>

株式会社生松製材所	〒038-3503 鶴田町大字鶴田字生松 108-1	0173-22-4045	0173-22-2583
株式会社成田林業土木	〒037-0302 中泊町大字薄市字沖原 115-101	0173-58-2842	0173-58-3017
有限会社今泉製材所	〒037-0301 中泊町大字今泉字神山 51	0173-58-2493	0173-58-2030
有限会社浜田製材所	〒037-0403 五所川原市十三通行道 103-108	0173-62-2145	0173-62-3870
笹山木材株式会社	〒037-0405 五所川原市脇元赤川 257-2	0173-62-2840	0173-62-2509
木村産業有限会社	〒037-0404 五所川原市磯松唐皮 31	0173-62-3425	0173-62-3571
中島製材所	〒037-0403 五所川原市十三字通行道 103-82	0173-62-2169	0173-62-2172
有限会社藤田製材所	〒038-2806 つがる市木造越水長谷川 54-5	0173-26-2051	0173-26-4380
アジモク	〒038-2761 鯨ヶ沢町大字舞戸町東阿部野 114-6	0173-72-3242	0173-72-5757
株式会社熊谷木材	〒038-2207 深浦町大字黒崎字小浜 184-1	0173-78-2434	0173-78-2435
株式会社なかにし	〒037-0202 五所川原市金木町芦野 365-384	0173-53-3222	0173-52-2236

<中弘南黒地区>

日東産業株式会社	〒038-1144 田舎館村大字前田屋敷数字村元 110	0172-58-2855	0172-58-2854
有限会社協大木材	〒036-0343 黒石市大字浅瀬石字山辺 251-19	0172-53-4070	0172-52-4911

<下北地区>

工藤林業株式会社	〒039-5201 むつ市川内町館山下 131-1	0175-34-0107	0175-34-0108
有限会社島木材工業	〒039-4601 大間町大字大間字蛇浦道 11-7	0175-37-2071	0175-37-3926
有限会社村口産業	〒039-4502 風間浦村大字易国間字大川目 6-7	0175-35-2147	0175-35-2191
有限会社川崎造材	〒039-4401 むつ市大畑町湯坂下 37-7	0175-34-2182	0175-34-5688

<十和田上北地区>

十和田燐寸軸木株式会社	〒034-0051 十和田市大字伝法寺字平窪 78-1	0176-28-2551	0176-28-2560
株式会社わかもと	〒034-0051 十和田市大字伝法寺字大窪 92-5	0176-28-2244	0176-28-3568
有限会社山内製材所	〒039-2129 おいらせ町中平下長根山 1-824	0178-56-2746	0178-56-4622
青森木材防腐株式会社	〒039-2805 七戸町字原久保 95-37	0176-62-6464	0176-62-6465
加賀木材工業株式会社	〒039-2826 七戸町字中野 50	0176-68-2033	0176-68-4539
有限会社米田製材所	〒039-2372 六戸町大字折茂今熊 247-370	0176-23-2181	0176-23-5897
株式会社クドウ住建	〒039-2815 七戸町字森ノ下 62-1	0176-68-2003	0176-68-2178

<三八八戸地区>

南部木材株式会社	〒039-1161 八戸市大字河原木字海岸 18-5	0178-21-2310	0178-20-4336
八戸チップ工業株式会社	〒039-1108 八戸市大字上野字堀端 21-1	0178-27-3074	0178-27-1433
株式会社ツガイヤマジュウ	〒039-3124 野辺地町字白岩 37-25	0175-64-2332	0178-62-5151
マツハシ林産株式会社	〒039-0201 田子町大字田子字野々上 34	0179-32-2367	0179-32-3419
株式会社山口製材所	〒039-0612 南部町大字剣吉字大坊 6-20	0178-75-0065	0178-75-0019
山王林産有限会社	〒039-0113 三戸町大字目時字中野 107	0179-22-2040	0179-22-2878
株式会社林材センター	〒039-1161 八戸市大字河原木字海岸 18-5	0178-32-0240	0178-32-0266
株式会社曽我産業	〒031-0114 八戸市南郷大字中野字丑木沢 41-7	0178-82-2347	0178-82-2361
株式会社丸勝木材	〒031-0804 八戸市青葉 2-12-14	0178-43-4007	0178-47-9699
王子木材緑化株式会社 八戸営業所	〒031-0072 八戸市城下 1-1-9	0178-38-6388	0178-38-6389

信頼の **JAS** 木材製品

青森県製材JAS認証工場

認定番号 JLIRA	認定工場名	工場所在地 / TEL・FAX
B-10-02	齋藤木材株式会社 製材工場	〒038-0002 青森市沖館三丁目 10-1 TEL 017-781-1148 FAX 017-781-1268
B-10-06	株式会社わかもと 製材工場	〒034-0051 十和田市大字伝法寺字大窪 92-5 TEL 0176-28-2244 FAX 0176-28-3568
B-10-07	上北森林組合 木材加工センター	〒034-0301 十和田市大字奥瀬字生内 268-1 TEL 0176-72-3111 FAX 0176-72-3114
B-10-12	三八地方森林組合 木材加工センター	〒039-1528 三戸郡五戸町大字浅水字陣馬 92-2 TEL 0178-67-2003 FAX 0178-61-8639
B-10-13	笹山木材株式会社 製材工場	〒037-0405 五所川原市脇元赤川 257-2 TEL 0173-62-2840 FAX 0173-62-2509
B-10-14	木村産業有限会社 製材工場	〒037-0404 五所川原市磯松唐皮 31 TEL 0173-62-3425 FAX 0173-62-3571
B-10-18	有限会社島木材工業 製材工場	〒039-4601 下北郡大間町大字大間字蛇浦道 11-7 TEL 0175-37-2071 FAX 0175-37-3926
B-10-20	株式会社なかにし 製材工場	〒037-0202 五所川原市金木町芦野 365-384 TEL 0173-53-3222 FAX 0173-52-2236

製材等JAS第三者検査機関あおもり

〈青森県連絡先〉青森県木材協同組合

〒030-0151 青森市大字高田字川瀬 104-1 TEL. 017-739-8761 FAX. 017-739-8749



あおり産木材地産地消ガイドブック 2025

青森の木と暮らす

Made in Aomori House

vol.16

2026年3月16日発行

発行所

青森県木材利用推進協議会（青森県木材協同組合内）
〒030-0151 青森市大字高田字川瀬 104-1 TEL017-739-8761

編集・デザイン・印刷

有限会社 岩田広告社

監修

青森県農林水産部 林政課 林産振興グループ

ライター

小田切 孝太郎

井藤 雪香

苫米地 結子

栗本 千尋

佐藤 史隆（合同会社ものの芽舎）

撮影

松川 雄史（株式会社フォトセンター惣門）

今井 聡（次元 fotografiar）

山本 東（MORE BRANDING）

協力

大成建設株式会社／川澄・小林研二写真事務所

三井嶺建築設計事務所

竹浪比呂央ねぶた研究所

※本誌掲載の写真・記事・図版等の無断複写・複製・転載・引用を固く禁じます。

青森県優良住宅協会

優

私たちは真に優良な木造住宅の
普及促進をめざす
地元工務店の団体です。



正会員

- | | | | |
|--------------|---------------|-----------------|----------------|
| ■ (株)垂細垂建設 | ■ (株)あさひほうむ | ■ (株)てる設計 | ■ (有)キーポイントホーム |
| ■ タカヤマホーム(株) | ■ イシドヤホーム(株) | ■ (有)林 工務店 | ■ (株)鶴谷建設 |
| ■ (有)マツノホーム | ■ 建築工房アルファ(株) | ■ (株)箱田住宅工業 | ■ (有)一戸建設 |
| ■ ワコウ建設(株) | ■ (有)大平建設 | ■ (株)プライムハウジング | ■ (有)森工務店 |
| ■ (株)リアルウッド | ■ (株)長内建築事務所 | ■ (有)三浦建設 | ■ (株)キムコーハウジング |
| ■ (株)今 工務所 | ■ (有)小田桐住建 | ■ (株)メイクホーム | ■ (株)丸章工務店 |
| ■ (株)小嶋建設 | ■ (有)かわさき住宅 | ■ (株)ヤマノアーキデザイン | ■ 高山建築 |
| ■ (株)三浦組 | ■ (有)家口建設 | ■ (有)高森ホーム | ■ 武匠 |
| ■ (有)舩館工務店 | ■ (株)協 和 | ■ (有)山中技建 | ■ (株)トロワデザイン |
| ■ 丸喜(株)齋藤組 | ■ (株)菊池組 | ■ (有)心 工務店 | ■ グレイズ建築(株) |
| ■ 小野住建 | ■ (株)黒田建設 | ■ (株)石豊建設 | ■ (有)興都建設 |
| ■ (株)大室建築 | ■ (株)黄金工務店 | ■ (有)丸二建設 | ■ (有)真木工務店 |
| ■ (株)鳥谷部建設 | ■ (株)齋米建設 | ■ 佐々富建設 | ■ 豊嶋建築(株) |
| ■ (株)喜多山工務店 | ■ (有)齊藤建設 | ■ (株)蹴和建設 | ■ (有)岡田工務店 |
| ■ (株)西村組 | ■ (株)高松工業 | ■ (株)セントラルホーム | ■ 工藤建築 |
| ■ 日野建ホーム(株) | ■ ユネストホーム(株) | ■ (株)Z-Life | ■ 未来環境開発(有) |
| ■ (株)伊藤光建設 | ■ 成田住建 | ■ (株)北三住建 | ■ (有)シーユーハウジング |

賛助会員

- | | | | |
|--------------------|---------------|------------------------|--------------------------|
| ■ アイジー工業(株) | ■ (株)角弘 | ■ ダイキンHVACソリューション東北(株) | ■ ハイビック(株) |
| ■ 青森三菱電機機器販売(株) | ■ (株)かさい材木店 | ■ 大建工業(株) | ■ パナソニックAWエンジニアリング(株) |
| ■ (株)赤石材木店 | ■ (株)頭久保 | ■ 高島(株) | ■ パナソニックハウジングソリューションズ(株) |
| ■ 旭化成建材(株) | ■ カメイ(株) | ■ タカラスタンド(株) | ■ 平野商事(株) |
| ■ (株)イクタ | ■ (株)グリーンハウザー | ■ (株)田窪工業所 | ■ フクビ化学工業(株) |
| ■ (株)石郷岡 | ■ ケイミュー(株) | ■ (株)タナカ | ■ 富士化学工業(株) |
| ■ 石巻合板工業(株) | ■ (株)コロナ | ■ 長州産業(株) | ■ (株)北電 |
| ■ 伊藤忠建材(株) | ■ (株)札促社 | ■ ティンパラム(株) | ■ 北海大洋プラスチック(株) |
| ■ (株)稲葉製作所 | ■ 三協立山(株) | ■ デュボン・スタイロ(株) | ■ ヤマメイ(株) |
| ■ (株)イノアックコーポレーション | ■ (株)シグマット | ■ TOTO(株) | ■ (株)吉田産業 |
| ■ (株)今井産業 | ■ 四国化成建材(株) | ■ 東北アキレス(株) | ■ 吉野石膏(株) |
| ■ (株)ウッドワン | ■ ジャパン建材(株) | ■ 東和電材(株) | ■ (株)ヨドコウ |
| ■ 永大産業(株) | ■ 城東テクノ(株) | ■ ナイス(株) | ■ (株)LIXIL |
| ■ SMB建材(株) | ■ 成和産業(株) | ■ ニチハ(株) | ■ ローヤル電機(株) |
| ■ (株)エフエム青森 | ■ セメダイン(株) | ■ 日本トリート(株) | ■ YKKAP(株) |
| ■ 越智建設(株) | ■ 双日建材(株) | ■ (株)ノダ | ■ 和以美(株) |

<連携団体> ■ 一般社団法人 JBN・全国工務店協会 ■ 一般社団法人 全国木造建設事業協会

[協会事務局] 〒036-8061 青森県弘前市神田2丁目3-12 株式会社石郷岡内

TEL0172-35-2100 FAX0172-35-2135



LIFESTYLE SQUARE
NICO STOCK
Furniture ☺



青森駅前「ニコニコ通り」
インテリアショップ



SERVICE

ライフスタイルのなかで”住”に関するアイテムを取り揃えた、
トータルコーディネートショップです。

独自にセレクトした家具や照明、カーテン、植物、雑貨まで
「毎日楽しく彩る」品を豊富に取り揃えております。

PRODUCT

家具・キッチン・洗面・照明・カーテン・植物・ウェア・
DIY商材(塗料・左官材・タイル)etc

NICOSTOCK Furniture

ニコストック ファニチャー

〒030-0862 青森市古川1丁目1-3 KOUICHI BLD
TEL 017-718-5184 <https://nicostock.com/>

